

2025 年国見九条の会つどい（市民の憲法行事）

敗戦の旧満洲で 1 年間放浪した小学生

戦後 80 年企画、戦争体験を聞く会

日本が起こしたアジア・太平洋戦争敗戦から 80 年が経ちます。戦争の残忍さ、外地から帰国までの過酷さを当時の方からお聞きし改めて日本国憲法第 9 条の大切さを学ぶ会を開催します。

日本が中国に攻め込んで作った傀儡国家「満洲国」には敗戦時推定 155 万人の日本人が住んでいました。そして当時小学 6 年生だった少年が朝鮮国境の鴨緑江に遊びに行った時に日本が敗戦。満洲国は一夜にして崩壊、各地で暴動が発生、家族の待つ新京（当時の首都、今の長春）まで 500 キロ以上を、一人ぼっちで放浪。1 年かけてやっと帰りました。その後「国共内戦」に遭遇。

今のウクライナのような激戦を体験。どうやって空腹をしのぎ、極寒の冬を越したのか、人間性を奪われた日本兵のやった真実とは。これは 2022 年 12 月 8 日に秋田大学でも講演されたお話で、多くの学生さんも感動した講演です。ぜひ、ご参加下さい。どなたでも参加できます。



日時：2025 年 5 月 10 日（土）午後 2：30～4：30

会場：国見コミュニティセンター 2 階ホール（青葉区国見 4-4-4）

講演：鈴木諄さん（92 歳、元秋田県学習協会会長、現宮城県学習協会会員）

内容：「ひとりぼっちの難民小学生」満洲国で敗戦直後 1 年間放浪の物語

参加費：500 円（学生無料）

国見九条の会、宮城県学習協共催 連絡先：白砂英男（TEL 022-275-7493）